

唐松岳山行報告

【山行日】2019年 8月 17日(土)～18日(日)

【集 合】岩舟支所P AM 4:00

【費 用】マイカー2台 : 23,300円

【メンバー】CL:鈴木、SL大西 安西、菊池、
田村、鶴見、福島、藤原、渡辺

8月17日(土) 晴れ 八方ゴンドラで八方池山荘まで行き、八方尾根を登り白馬三山や不帰ノ剣を楽しみながら唐松岳に登頂し唐松岳頂上山荘に宿泊する。

岩舟支所 P4:00＝八方ゴンドラ P6:40/7:10++

八方池山荘 7:50/8:10～八方池 9:10/9:30～

丸山ケルン 11:20～唐松岳頂上山荘 11:50/13:15～唐松岳 13:35/14:00～唐松岳頂上山荘 14:20

唐松岳頂上山荘に宿泊して、八方尾根から唐松岳にのんびり登りたいとリクエストがあり計画した。岩舟支所を4:00に出発し八方ゴンドラ駅の駐車場に着いたが、すでに満車で止められない。



少し戻った反対側の駐車場に空きがあり、無事に2台止めることが出来た。出発の準備をしたらゴンドラ駅まで歩き、チケット売り場の列に並ぶ。その間に皆さんはトイレを済ませる。ゴンドラアダムに乗り、8分間の空中散歩を楽しみ兔平に着く。さらにアルペンクワッド、グラートクワッドの2本のリフトを乗り継ぎ、1830mの八方池山荘までいきなり高度を稼ぐ。山荘脇にあるトイレで用を足し、ストレッチを行ってから出発する。山荘からの道は稜線通しに行くコースと、南側の山腹を行く湿原コースに分かれる。湿原コースは木道が整備された道で、お花が沢山見られるのでこちらを歩くことにする。木道の両側にシモツケソウやヒメシヤジン、オオバギボウシ、イワショウブ等の花が咲き、可憐な花々を楽しみながら登って行く。しばらく登ると湿原脇の広いベンチで大勢の登山者が休んでおり、我々も小休止して果物や菓子をいただく。ここから少し登ると立派なトイレがある第2ケルンに着く。トイレには寄らず、ケルンの前で写真を撮って八方池に向かう。

八方ケルン先の分岐を右に進み、八方池へ下って池畔のベンチで休憩する。池に映る白馬三山を期待したが、あいにくガスが掛かり白馬三山の一部が時折見えるだけである。



池畔は大勢の登山者や観光客で賑わっており、八方池を過ぎると観光客もいなくなり静かになる。しばらくは展望の開けた登りが続き、時折ガスの間に不帰ノ嶮が見え隠れする。さらに下ノ樺、上ノ



樺とダケカンバの林を登ると、残雪が美しい扇雪溪に着く。扇雪溪には寄らず右の急坂に取りつき、急登を頑張ると丸山ケルンに飛び出る。

白馬三山や不帰ノ嶮の眺望が素晴らしい所だが、ガスが掛かり時折不帰ノ嶮が姿を見せてくれる。

絶景は明日の朝の楽しみに取っておき、トマトや菓子を食べてエネルギーを補給する。ここからは岩とハイマツの稜線を歩き、途中から左に巻道を行くが巻道が通行止めになっていた。右の岩尾根に登りヤセ尾根の道を進み、下山者とのすれ違いに

神経を使う。危険な箇所は鉄パイプの手すりがあるが、両側が切れていて怖い箇所もある。山荘裏のピークに出ると唐松岳が見え、「ウワ～凄い！」と歓声が上がる。ここからほんの少し下ると頂上山荘の脇に出て、右に回り込むと山荘の入口がある。

受付の前に長い列が出来ていて、係の方が「受け付けは代表者だけ並んでください」と叫んでいた。受付に30分以上掛かり、ようやく部屋に着き部屋割りを決めてザックを降ろす。落ち着いたら食堂に行き、昼食をいただく。お湯を沸かしてカップ麺やスープを作り、おにぎりやパンと一緒に美味しくいただいた。昼食が済んだら部屋に戻って支度をし、いよいよ目的の唐松岳に登る。サブザックにレインウエアと水、おやつなどを詰め身軽



で山頂を目指す。少しガスが晴れて来て、白い花崗岩の唐松岳がはっきり見えるようになる。山荘の先から左に少し下り、鞍部から真っ直ぐ山頂に向かって登って行く。展望が良いハイマツの道を登り、20分程で山頂に着く。頂上からは360度の展望が得られ、鋭くとがった不帰ノ嶮の3峰、2峰



が間近に見え迫力がある。雲が多く剣岳や立山連峰は見えないが皆さん大満足！！記念写真を撮ったら、持って来たナシや菓子を食べながら展望を楽しんだ。展望を楽しんだら往路を戻り、山荘に着いたら着替えや荷物の整理を行う。

4時30分から夕食タイムになるので、3時から宴会が始まった。ビールやお酒、ワインなど好きなものを飲み、今日の感想や今年登った山々の話で盛り上がる。4時30分から1回目の夕食が始まり、我々は1回目の早い夕食をいただく。

唐松岳頂上山荘の食事は美味しいと聞いていたので期待したが、冷凍ハンバーグに袋のケチャップなので少し期待外れ。でも全体的には山小屋で食べる食事では、美味しく食べられたと思う。

夕食が済んだら部屋に戻り、布団を敷いて寝る準備をする。

元気な3人は唐松岳に夕日を見に登りたいと出かけて行った。我輩は布団に入ったが、明るいので起きて外に出ると、ガスが晴れて剣岳や立山連峰、五竜岳が見える。サンダル履きで山荘裏のピークに登り、夕日を楽しむことにする。しばらく夕焼ショーを楽しんだが、陽が沈むと急に寒くなり部屋に戻る。部屋に戻ると皆さんまだ起きており、しばらくお話をしている間にか眠りについた。

8月18日(日) 晴れ 山荘裏のピークでご来光を楽しみ、山荘で朝食を食べてから往路を戻り下山し、八方温泉で汗を流しガストで昼食後岩舟支所へ

山荘 4:40～山荘裏ピーク 4:45/5:10～山荘 5:15/6:15～丸山ケルン 7:00～八方池 8:10/8:30～

八方池山荘 9:30++ゴンドラ駅 P10:00＝八方温泉 10:10/11:00＝ガスト 11:10/11:50＝

岩舟支所 P15:00

朝4時に起きて窓の外を眺めると晴れていて、剣岳や立山連峰が薄暗い空にはっきり見えた。

朝食は早出の縦走パーティは4:30からで、八方尾根を下るパーティは5:15からと分けられている。



それでは朝食前にご来光を見ようと、日の出に合わせて山荘裏のピークを目指す。考えることは皆同じようで、大勢の登山者がピークを目指し登って行く。ピークに着くとすでに大勢の人がご来光を待っており、それぞれの場所に陣取り陽が登るのを待つ。すでに東の空は真っ赤に染まり、今にも出てきそうな様相だが中々出てこない。今日は雲海に厚く覆われているので、その分時間が掛かりそうだ。6時10分になっても陽が登らないので、残念だが山荘に戻ることにする。

山荘に向かって下ると、途中で陽が上り無事ご来光を拝むことが出来た。山荘に戻ると6:15からの朝食が始まり、早く席に着くよう急かされる。朝食はとても美味しく、ご飯やみそ汁をお代わりしていただいた。出発の準備トイレを済ませたら挨拶して外に出る。正面に剣岳と立山連峰がドーンと聳え、南側に五竜岳の大きな岩の塊が迫ってくる。剣を見ながらストレッチを行い、記念写真を撮ったら出発する。下山は往路を戻り山荘裏のピークに向かって登る。ピークに登ると360度の大きなパノラマで、昨日見えなかった白馬三山から不帰ノ嶮、唐松岳、剣岳、立山連峰や五竜岳が見え大感動！！

皆さんが「毎年ここに登ってもいいね、楽に登れてこれだけの景色が見られるなんて最高だよ」とつぶやいていた。ピークからヤセ尾根を下って行くが、左に白馬三山右に五竜岳を見ながらルンルン気分で降りて行く。丸山ケルン



まで下ると圧巻だった。白馬三山から天狗の頭、不帰ノ嶮の荒々しい岩峰が屏風のように連なり、反対側に五竜岳と鹿島槍ヶ岳がドーンと聳え一幅の絵画を見てるようだ。

絶景を見ながらマスカットやゼリーをいただき、しばし至福の時間を過ごした。このまま下るのは惜しい気がするが、八方池から逆さ白馬鑓ヶ岳を見るため腰を上げる。扇雪溪から上ノ樺、下ノ樺と快調に下り、シモツケソウやウツボグサの花が昨日よりも多く咲いている。下ノ樺を過ぎると稜線上に立つ第3ケルンが見えてくる。ケルンの手前から北側に下り、八方池まで下りて池畔の南側で写真を撮る。風も無く水面が穏やかで白馬鑓ヶ岳が映っていたが、山頂に少しガスが掛かってきた。急いでカメラに収めガスが晴れるのを待つが、中々晴れそうにないので諦める。来た道を少し戻り第3ケルンまで登って、八方池と白馬三山の景色を上から眺めながら第2ケルンに



向かう。

向かう。

第2ケルンのトイレに寄り、ここからは往路の湿原コースの花を楽しみながら下って行く。晴れている分お花畑は彩やかで、色とりどりの花々を愛でながら八方池山荘まで下って行く。

ここから2本のリフトとゴンドラを乗り継ぎ、無事に駐車場に戻った。靴を履き替え荷物を車に積んだら八方温泉に向かう。

八方温泉は時間が早いので空いていて、のんびり温泉に浸かることが出来、疲れた体を癒すことが出来た。

いつものガストで昼食を食べ、道の駅「なかじょう」で買い物をする。前回はお目当ての桃がほとんど無かったが、今回は時間が早いので沢山桃が並び選んで買うことが出来た。

皆さん桃やスイカ、トマト、トウモロコシ等々を買ったが、後日皆美味しかったと喜んでいた。

我輩も桃を買ったが、甘くてみずみずしくとても美味しくいただいた。上信越道と北関東道は順調に走り、予定よりも早く岩舟支所に帰着した。

